

藝大

教養科目

リベラルアーツ ガイド

GEIDAI LIBERAL ARTS
GUIDE

2023



TOKYO GEIDAI

藝大

教養科目

リベラルアーツ

ガイド

GEIDAI LIBERAL ARTS
GUIDE

2023

藝大リベラルアーツ（教養科目）ガイドの使い方

本ガイドには本学で開講されている『（一般）教養科目』が掲載されています
各科目の授業内容は本学 WEB サイト上にあるシラバスを参照してください

◆履修に際しての注意事項

- ・ 科目によって履修対象が異なります。本ガイドに掲載されている科目の中には、美術学部生あるいは音楽学部生のみを履修対象として開講している科目もあります。

- ・ 本ガイドに掲載されている科目が教育課程表（カリキュラム表）のどの科目区分に分類されるかは、科・専攻によって異なります。

例）美術学部生にとっては「教養科目」となるが、音楽学部生にとっては「自由科目」（卒業・修了要件単位とならない科目）となる科目がある 等

- ・ 履修に際しては、各自が「履修案内／履修便覧」「授業時間割表」「シラバス」等をよく検討し、責任を持って計画を立て、必要な単位を修得してください。不明点がある場合には教員室や教務係に問い合わせてください。

2023 年 2 月時点の内容のため、以降に変更される場合があります。

芸術を修めるためには、それぞれが学ぶ専門だけでなく、美術や音楽それぞれの分野として極めるための学びや、デジタルを代表とする新たな表現手段の獲得、そして、芸術そのものを成り立たせている社会や環境への理解が必要となります。

藝大には、このような多岐にわたる必要な学びに応えるため、ほかの大学と較べても豊富なジャンルの教養科目が開講し、アップデートを続けています。

専門だけではない、世の中を探究するために必要な教養となる学びを「リベラルアーツ」といいます。本学では、ひとりひとりが表現することを通じて、社会の中でチャレンジするみなさんに向けて、科学や文明の広がりや深みの探究の入り口となる学びの体験から、幅広い分野の芸術や創作、その思索やノウハウを獲得できる授業、さらには仮想空間やデジタルといったデジタル表現や、社会の諸課題や芸術への実装といった、これからの時代で活躍するためのコンセプトや道具となる実践的な経験を得られる機会までもが提供され、それぞれの分野の第一線になる先生から得ることができます。

あなたにとって、必要なリベラルアーツを会得できるように、本ガイドでは5つのキーワードを設定して、幅広くかつ藝大らしいディープで糧になる教養科目から学びたい授業を選ぶサポートを提供します。

時代とともに生まれる新たな分野、
これからの知識にアクセスすること
ができます。

芸術の
広がりを知る

あらゆる分野の芸術とそこから生まれる文化の
姿形に接することができます。

次の時代の
知識を得る

藝大
リベラルアーツ
(教養科目)
ガイド

デジタルの
表現を
みにつける

社会の様々な場面で
デジタル化が進行す
る現在において、必
要とされる表現力を
身につけることがで
きます。

リベラルアーツとして、
私たちの文化や森羅万象
の基礎を理解すること
ができます。

教養を磨く

社会と共創する

いま、芸術に対して、様々な役
割が期待されています。社会と
ともにあるアートの可能性に触
れたり、体験したりすること
ができます。

それぞれのキーワードをコーナーにして、ガイドでは掲載しています。次の見開きでは、すべての教養科目を一覧できる目次を掲載しています。

探求したい、実装したい、リベラルアーツの学びと会得に、みなさんが出合えることを期待しています。

教養科目は、専門だけではなく、多くの授業は学部をまたいで受講ができるようになっています。日常では、なかなか一緒になることがない、他の分野の学生、それも藝大生らしい多彩な面々と学ぶことで、知り合いができることが多くあります。分野を越えた関係ができるのも、教養科目の魅力です。

もっと充実した教養（共通）科目づくりのために

芸術を通じて社会との関係が不可欠になる藝大生にとって、充実できるリベラルアーツを提供するため、学生のみなさまからのアンケートを募集します。以下に掲げるバーコードをスキャンし、リンク先に出てきたアンケートフォームに記入してください。



INDEX

テーマ

● 教養を磨く ● 次の時代の知識を得る ● 芸術の広がりを知る ● 社会と共創する ● デジタルの表現をみにつける

No.	テーマ	科目・コンテンツ	ページ
-		ガイドの使い方	2
-		INDEX	4
-		藝大リベラルアーツへの道標	6
1	●	先端知を識る 異分野横断オムニバス講座	7
2	●	アーティストのためのダイバーシティ&インクルージョン入門	10
3	●	キャリア設計演習	12
4	●	アーカイブ概論	14
5	●	映像演習Ⅱ アニメーション	
6	●	応用音楽学入門Ⅰ・Ⅱ	15
7	●	音楽文化史Ⅰ・Ⅱ	
8	●	音響学Ⅰ・Ⅱ	16
9	●	音声学Ⅰ・Ⅱ	
10	●	クリエイティヴ・アーカイヴ演習 アーティストのためのアーカイヴ	17
11	●	芸術史	
12	●	芸術と情報	18
13	●	現代芸術概説	
14	●	現代美術キュレーション概論	19
15	●	創造と継承とアーカイヴ：領域横断的思考実践	
16	●	バレエ史Ⅰ・Ⅱ	20
17	●	美学Ⅰ・Ⅱ	
18	●	ポップ論Ⅰ・Ⅱ	21
19	●	メディア特論：アート＋	
20	●	芸術情報リテラシー概論 著作権、知的財産権、メタバース、NFT アート	22
21	●	情報メディア学	
22	●	創作のための認知科学	23
23	●	著作権概論Ⅰ・Ⅱ	
24	●	メディア・リテラシー	24
25	●	イタリア文学Ⅰ・Ⅱ	
26	●	英米文学Ⅰ・Ⅱ	25
27	●	憲法	
28	●	社会学	26

No.	テーマ	科目・コンテンツ	ページ
29	●	宗教学 宗教のセカイ／セカイの宗教	26
30	●	心理学概説Ⅰ・Ⅱ	27
31	●	生物学Ⅰ・Ⅱ	
32	●	哲学Ⅰ・Ⅱ	28
33	●	ドイツ文学Ⅰ・Ⅱ	
34	●	フランス文学Ⅰ・Ⅱ	29
35	●	文化社会学Ⅰ・Ⅱ	
36	●	文化人類学Ⅰ・Ⅱ	30
37	●	法学	
38	●	歴史Ⅰ・Ⅱ	31
39	●	倫理学Ⅰ・Ⅱ	
40	●	音楽アウトリーチⅠ・Ⅱ	32
41	●	音楽教育入門	
42	●	音楽療法Ⅰ	33
43	●	音楽療法Ⅱ	
44	●	芸術と社会 21世紀の社会が求める創造性とは	34
45	●	芸術文化環境論Ⅰ・Ⅱ	
46	●	芸術情報概論A・B	35
47	●	「障がいとアーツ」研究	
48	●	DOOR 特集	36
49	●	日本の芸術・文化を英語で学ぶ Introduction to Japanese Arts and Culture	38
50	●	イメージ演習A	
51	●	イメージ演習B	39
52	●	インタラクティブ・ミュージックⅠ	
53	●	映像演習Ⅰ 映画	40
54	●	芸術情報演習Ⅰ	
55	●	芸術情報演習Ⅱ	41
56	●	ゲーム制作演習1・2	
57	●	コードとデザイン	42
58	●	デジタル・サウンド演習	
59	●	メディアアート・プログラミングⅠ	43
60	●	メディアアート・プログラミングⅡ	

藝大リベラルアーツへの道標

皆さんは専門を極めるため、明確な目標をもって藝大の門をくぐられたことと思います。わが校の学びの根幹は、みなさんが主に取り組んでいる、専門科目および専門基礎科目の授業であることは、いうまでもありません。加えて、研鑽する専門領域をより深化させ豊かなものにするため、語学やリベラルアーツの講座が開設されているのです。

リベラルアーツとは、教養を培う学びの領域のことを指しますが、本学では教育の特徴をふまえ、アートと直接、あるいは間接的に関わりのあるものを中心に、多彩な分野にわたる授業を開講しています。このガイドは、藝大で開設されている、これら「教養」「一般教養」科目を網羅して、みなさんの科目選択の道標となるものです。

私たちは日頃どうしても自分の専門に意識が集中しやすくなりがちですが、ひとりひとりが取り組んでいるアートと社会の共創・共存を考えると、視野を拡げ、俯瞰する力を養うことが必要となります。視点を変えることで違う世界が見えてくる、ということもあるでしょう。また、情報や新しい技術にも目を向けなければなりません。

このガイドを有効に活用して、皆さんの創作・研究活動がより実り多いものになることを願っています。

令和5年3月
東京藝術大学理事（教育担当）
迫昭嘉

教養教育センター開設科目・リベラルアーツ企画授業

教養教育センターでは、藝大らしいリベラルアーツを充実させるため、全学生を対象に特別な企画授業を開設しています。

本授業は、常に時代とともに在り続けなければならない表現者となる藝大生に対して、各分野の先端知を担い、新たな科学を切りひらいてきたフロンタランナーの先生から直接学べる授業です。毎年、異なる先生をキュレーションして開催するこの授業、今年は、私たちの体内にはじまり、脳そのものをデザインしたり、統計の森羅万象、そして、異なる世の中を暮らしながら探索する調査の世界まで、人間と営みの先端知に直接触れられる授業を展開します。

1

次の時代の知識を得る

先端知を識る 異分野横断オムニバス講座

授業を行う先生：神崎亮平、美添泰人、小川さやか、栗原裕基、岡田智博

開講時期・時間：前期 水曜日 4時限

科学の発展は私たちに様々な可能性と影響をもたらしています。人類として新たなウイルスの脅威にさらされ、先端医療と技術の研究によってまったく新たな手段で立ち向かうことができたこと、80億人も人間がグローバルにつながるためのさまざまな仕組み、その課題や困難を克服するブレイクスルーは、その好例といえることができるでしょう。芸術もまた、このようにアップデートされる様々な知性を駆使することで、みなさん一人ひとりの手によって作られ、発展していきます。

本授業は、私たちにとっての知的可能性を拡張できるように、今年は、神経行動学、細胞医学、統計学、文化人類学といった各分野の科学をリードする高名な方を講師に招いて行ないます。領域を切りひらいている先生が直接みなさんに講義することで、異なる分野の先端知にライブで触れます。そのことを通じて、創作者としてより視野を広げ、新しい発想につながれることを期待しています。

今年の授業ラインナップ

4・5月

神崎亮平 生物学者 神経行動学 先端科学技術研究センター教授

生き物全体の脳と神経機能のメカニズムを解き明かし、神経回路のデザインまでも解き明かす。

5・6月

美添泰人 統計学者 一般社団法人新情報センター会長 青山学院大学名誉教授

ビッグデータを解析し、AIを加速化させる、社会を動かす統計学。

6・7月

小川さやか 文化人類学者 アフリカ地域研究 立命館大学大学院先端総合学術研究科教授

アフリカの都市の商人たちのその日暮らしから、生き抜くためのヒントを学ぶ。

7月

栗原裕基 脳科学者 東京大学大学院医学系研究科教授 代謝生理化学

複雑な人体までも維持し続ける細胞と血管の「かたちづくり」を知る。

授業キュレーション 岡田智博 教養教育センター コーディネーター

全講義にわたり進行役をします。表現を通じて社会の最前線に出るみなさんにとって、思索の厚みにプラスとなる機会となることを期待しています。昨年、受講生から好評でした、各先生と直接お話しできる機会も授業後につくります。

研究とそこから森羅万象を俯瞰する研究者との出会い

異分野横断オムニバス講座の魅力に迫る

ほかの藝大の授業と違う学びを揃えたこの授業、インパクトのある魅力ある研究や実践を行ってきた先生だからこそその知の出会いがあります。昨年と今年の先生に、授業の振り返りと今年の授業の学びどころをお聞きしました。

2022年の先生から **創造がより必要とされる時代に変化を把握する「もの」の見方を伝えられた**

御立尚資

経営学者 京都大学経営管理大学院特別教授・ボストン コンサルティング グループ 元日本代表

ー授業を通じて特に伝えた点を教えてください。

御立 時代環境に対する「ものの見方」を伝えました。授業の毎回、レスポンスシートに回答してもらったのですが、多くの学生に将来役にたつ授業だったなと、感じてもらえたようです。

受講生のみなさんをこれからのアーティストと考えた場合、表現する自身と時代環境との関係を認識することが、反発するにせよ、乗っかるにせよ、表現をする上で何らかのプラスになると考えます。

今の時代はどうなんだろう、これから来る時代をどんなものにすることができるだろうかということです。時代の中で自らの表現を俯瞰して説明することができるようになります。それによって、自分らしさが伝わったり、キュレーションされたりしていきます。

まさに、このことを俯瞰して理解してもらうために、ルネサンスのダイナミズムに触れたのですが、その頃、まさに時代の変化があらゆる芸術を変え、さまざまな発展的变化へと結びつきました。



ー芸術家と事業創造をする起業家やコンサルタントなどといったバリューを生み出すビジネスパーソンとは共通するものがあるように授業を通じて考えました。

御立 事業を創造できる優れたビジネスパーソンは、既に経験や知識、思考の積み重ねがあって、その上に自分らしさをもって再構築することで、新たな価値を生み出しています。その点では、藝大で学んでいるみなさんが今、取り組んでいるように訓練の積み重ねの上に技術のベースが生まれ、その上に自分らしさの表現があると考えます。ここで、リサーチやコンセプトメイクといった時代との関係を問い直すことが必要になることは、同じ点ではないのでしょうか。「アート」の語源である「アルテス」は、芸術と技術の両面の意味があります。このように、優れたビジネスとアートは重なる点があるといえるでしょう。加えて、どれだけ「こころ揺さぶれるような」体験をしたかを認識できた人ほど、揺さぶられる「ビジネス」(イノベーション)と「アート」を生み出す傾向があるのは重なる点だと感じます。

ー授業で接して藝大生はいかがでしたか

御立 長くの間、企業を外部から揺さぶることでお手伝いをする立場として、大きな会社に対して変わるためだったり新しいビジネスをつくることに介入する仕事だったのですが、これからの社会で必要にされる存在だなと感じました。表現を通じて揺さぶることもそうですが、ストレートに考えたレスポンスを毎回出してくれる学生たちには、飾らずに答えをくれるという率直さに刺さるものを感じました。



ーきたる授業のポイントを教えてください。

小川 アフリカ・タンザニアの路上商人たちがいかに「ずる賢く」生きていくかについて文化人類学的に着目して研究をはじめ、アフリカの人々による香港・中国を結ぶインフォーマルなネットワークについてテーマを広げています。4回の授業では、タンザニアの人々は、お金とは関係なしに人生や空間を多様化する戦略を日常の中であっていて、その話をしようかなと先ず、考えました。そして、彼らのウジャンジャ（ずる賢い知恵）について、相互に生きるための贈与の話、これらのアップデートとしてSNSビジネスの話を含め、しようかと考えています。

ーもりたくさんですね。わざわざ「ずる賢い知恵」というのが言葉になっているのも興味深いです。

小川 タンザニアでは、米国や中国の巨大テック企業のプラットフォームが浸透している中で、そこには乗らない商人たちによるインフォーマルなデジタルプラットフォームビジネスが活性化しているのですが、その中でも面白い商品たちの独自の戦略が入っているのです。あと、タンザニアの人々はわたしたちのようなシェアの概念は違うといいながら、空間的にはシェアをしているのが興味深いと思われます。

ー私たちの日常とは違う生きざまや価値がそこにはあることに、すごくインスパイアされます。

小川 私が知りたいことと、専門である文化人類学を照らしあわせると、どこまで無条件で社会がまわせるかについて追っていると思うのです。世界を見渡すと、貯金もないし、住所もないし、なにもないのだけれど、人々は社会をまわす仕掛けというものがそこら中にあるのです。そこに、さまざまな「贈与」とか「シェア」が関わって、生きていくかたちがあるのです。私たちって、そういうとすぐに「コワーキング」とか「シェアハウス」とか考えてしまいますが、タンザニアでは長屋とか普通にシェアみたいなもので、家の中の「壁」がいつの間にか他の人にお店として使われていたり、「もの」がどんどんつかわれたりして、これらがすぐにかわったり、一方で数十年のスパンの縁になるのです。シェアは目的ではなく、結果としての日常なのです。そして、相互が生きている。

ーこの授業で得てもらいたいことを教えてください。

小川 藝大の人たちは、チャレンジを続ける、場合によっては不確定な生き方になるかもしれない、生き方をしていると思うのです。しかし、さまざまな生き方、暮らし方を知ることで、挑み続けることで不確定な生き方、独創性でチャレンジできる生き方であっても、いきいき続けていける基盤のつくり方やアイデアを得るのに寄与できる授業ができたかと考えています。

もちろん、文化人類学の考え方にも触れられる授業にできればと思います。文化人類学は。私たちが常識だと考えているあり方とは異なる、社会や文化を知ることで、全然違うあり方、オルタナティブが可能なんだということが実感し、異なるかたちを構想する力を培う魅力があります。それは、創ることや、生きていくための一助になることでしょう。

芸術を通じて、社会を切りひらく可能性を持っている藝大生に、世界的な視野を涵養できるよう、グローバルサポートセンターとのリベラルアーツ企画授業を開設しています。これから社会で表現し、活躍するために必要とされる、「多様性＝ダイバーシティ」「受容＝インクルージョン」を第一線で活動する、多彩な講師から学びます。

2

社会と共創する

アーティストのためのダイバーシティ&インクルージョン入門

授業を行う先生：毛利嘉孝、荒木夏実、上野千鶴子、出口真紀子 ほか

開講時期・時間：後期 木曜日 6時限

芸術文化の分野での活動には、国境や言語を超えた多様なバックグラウンドを持つ人々との交流、そしてこれまでとは異なる世界や価値観との出会いが含まれます。そして、このような交流・出会いを通じて、自分にとってこれまで当たり前だと思っていたものの多くが、実はある特定の時代、地域、社会、属性のなかの限られた常識に過ぎず、他のひとたちにとって決して当たり前でも普通でもないことを、実感することもあるでしょう。

このように、芸術文化を通じて「当たり前」を超えたところにある世界の幅広さや多様さを知ると同時に、現実にはその多様性や差異を拒否・排除してしまう「当たり前」の社会や政治の常識／制度が依然として存在し、さまざまな問題が未解決のまま残されています。

私たちの「当たり前」という感覚の背後で見えなくされたままの問題をどのようにしてきちんと知り、認識できるのか。これがこの授業の最初の目的です。たとえば、大学へ進学すること、母国語だけでコミュニケーションすること、自分の性別、国籍や肌の色について気にせず生活すること。実はこれらは誰にとっても「当たり前」のことではありません。

「多様性（ダイバーシティ）」と「受容（インクルージョン）」という言葉は、現代社会において私たちひとりひとりが抱えているさまざまな差異や特性（障がいの有無、国籍、性別や性自認、人種、信仰、年齢、言語、文化）を相互に理解し、それらを尊重する態度を学ぶことで互いに共存していくための方法／考え方であり、広くは私たちひとりひとりが生まれながらに持っている「人権」の概念へと結びつくものです。

本授業では「マジョリティとマイノリティ」「ジェンダーとセクシャリティ」「人種とエスニシティ」といったカテゴリーから、それぞれの専門分野の研究者による理論、そしてアーティストらによる実践を講義形式で学びます。

受講生のみなさんは理論を通じて個々の（身体的、社会的、経済的、文化的）差異がどのように支配的な社会規範や構造のなかで誤解や偏見、差別、社会的排除に晒されてしまうかについて学び、その上でこれらの問題を文化芸術の領域で乗り越え、解決しようとする実践についてアーティストから話を聞きます。この授業を通して、今後自分の表現や研究が発するメッセージが広い意味での他者、とりわけ自分とは背景が異なる人びとにどのように受け止められるかについてより広く想像力を働かせること。それは、「当たり前」を問いに付し、新たな視点や価値を社会に提示しようとする芸術の実践にとってとても重要な学びの出発点なのです。

昨年の授業から

多様な分野で活動する講師に迎えたレクチャーとディスカッションで参加者の想像力が喚起する授業を実施

学外より、6名の講師に迎え、ジェンダー、セクシュアリティ、障がい、文化の多様性などをテーマに講義とディスカッションを行いました。

出口真紀子先生

マジョリティ特権とは／さまざまな特権と交差性／マジョリティ側の責任と課題

「特権（＝ある社会集団に属していることで労なくして得られる優位性）」をキーワードに、これまでマイノリティ側から学ぶことの多かった差別や人権の問題を、特権を持つマジョリティ側の態度や心理、行動、成長に焦点を当てて考察しました。

受講者の声

自分は差別とは無関係で、差別をする誰かが悪いと思っていたが、そのようなマジョリティの無関心がマイノリティの生きづらさを作っていることを知り、他人事には思えなくなった。

上野千鶴子先生

ミソジニー・性暴力・フェミサイド——家父長制の構造と実践

ミソジニー、ホモソーシャル、ホモフォビアなどの概念を紹介しながら、女性学・ジェンダー研究が男性優位社会と性差別について何を明らかにし、何を達成してきたのかを解説しました。

受講者の声

家父長制ができた仕組みを学べば戦い方がわかる、どこかの時点で生まれたシステムはどこかで終わると聞いて勇気づけられた。

福島智先生

視覚と聴覚のない世界で生きることと、そこで感じる美しさについて

9歳で失明、18歳で失聴した盲ろう者の講師が、触覚・嗅覚・味覚で感じる情報とは。そして五感とは異なる次元の内面で感じる「ことばの世界」の美しさについて解説しました。

受講者の声

「視覚や聴覚に依存する芸術をいくら用いても（それらを感じ取れる）前提が自己と他者の間で異なっているので、同じ体験にはなり得ないことが理解できた」

アンジェロ・イシ先生

エスニシティと多文化共生

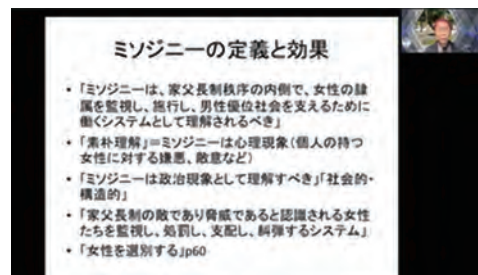
日本とブラジルにおける「エスニック・マイノリティ」に対する差別や人権侵害の現状、メディアでの「外国人」の表象などを通して、日本社会の「多文化共生」の実情について考察しました。

受講者の声

自分の伝えたいことを大事にしながらも、それが差別的な表現になっていないか、当事者によるチェックを含めたりサーチや配慮が必要だと思った。



出口真紀子先生の授業（オンライン）より抜粋



上野千鶴子先生の授業（オンライン）より抜粋

藝大生だからこそ、思い悩むであろう将来の進路のこと。そして、藝大生だからこそ、開かれている幅広い可能性。これからの自らの進む途を構想するための力を養えるよう、今年から新たに、アートキャリア・オフィスとのリベラルアーツ企画授業を開設しました。アーティストとして、社会人として、自らの手でキャリアを構想できる場を、授業を通じて提供します。

3

社会と共創する

キャリア設計演習 ～未来を切り拓く力を育む～

授業を行う先生：富塚絵美 ほか

開講時期・時間：前期 水曜日 5 時限

「藝大生って卒業後どうなるの？」

みなさん、卒業後のこと、考えていますか？

「就職なんてしない」と思っている人にも、「そんなこと考えたら芸術なんてできない！」と思っている人にも、平等に卒業後はやってきます。そして、いくら嫌がっても社会人の一員とみなされ、どうにかこうにか社会との折り合いをつけて生きていくことになります。

藝大生は、一人一人が望む道を信じて進んでいくことが多いので、将来進むキャリアに傾向はなく、個々によってその活動の幅も多岐に渡るとというのが実情です。みなさんが学生のうちに取り組む「芸術」にまつわるさまざまな経験や学びは、ジャンルを問わず社会の出来事を推進する力に繋がっています。

たとえば、イメージを具現化していく専門技術や実行力、実現するまでの計画力やコミュニケーション能力などは、プロのアーティストや専門家としてだけではなく、どの業界で働く場合にも重宝されます。

ただ、芸術の価値を前提とする「藝大」から一步外に出た時には、当然、その前提を共有できない人々やその価値に重きを置かない人々の中で「仕事」をしていく機会が増えることでしょう。

そういった時にも、めげずに芸術とともに生きていく、あるいは堂々と創造性を発揮していくためには、みなさんが鍛錬している専門的な技芸とは異なる、社会と接するための「技」や「知恵」が必要になります。

計 14 回の本授業では、自分自身のことを言葉にして表現するワークと、ゲストに質問をしながら社会の実情を知るワークに取り組みます。そして、自分自身の意志や状況に合ったキャリアプランを作成します。

卒業後も自分の感性を否定することなく生きていくためには、まず自分と社会の両方の現状を知る必要があります。それらを知った上で、次の一手を導き出せる力をつけなければとても苦しむことになるでしょう。脅かしたいわけではありませんが、道なき道を一步一步進んでいくために、自分の将来をなによりゆきに任せるのではなく、必要な経験・知識やスキルを自覚したり判断したりしながら理想イメージに近づけていく思考力を身につけることが、この授業の目的です。

学年や専攻は問いませんので「アーティストや演奏家になる／ならない」あるいは「就職する／しない」に関わらずぜひ受講してください。

アートキャリア・オフィス

学生そして卒業生を対象に、芸術とともに生きるための進路相談を受付中！

芸術家や専門家として、就職して社会人として、多彩な進路とプロフェッショナルリティでこれから活躍する在学生、そして卒業生に対して、キャリア支援を行っています。

東京藝術大学 アートキャリア・オフィスのウェブサイトからメールアドレスを登録するとキャリア支援に関する様々な情報を受け取れます。卒業生のインタビュー動画なども掲載していますのでご覧ください。

<https://csupport.geidai.ac.jp/>

4

芸術の広がりを知る

アーカイブ概論

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：上崎千、西澤徹夫、嘉村哲郎

開講時期・時間：前期 水曜日 3時限

アーカイブとは何か。いかにしてアーカイブは可能となるのか。アーカイブは何と異なり、何とどう似ているのか。システムとしての言語（言語化の諸可能性）と物理的なマテリアルの集成（corpus）とのあいだで実現されるカルトグラフィを、芸術学の範疇において捉え直します。

芸術を構成している様々な事象〈アーカイブ〉に向けての問いを投げかける本授業の射程には、アーカイブという知の在り方そのものを駆動させている技術への関心が含まれています。

本授業では、アーカイブ理論、建築学、情報学を専門とする3人の教員の視点から、アーカイブをめぐる様々な問いと「芸術作品とは何か」という根源的な問いとの接続を、講義・講読・討論を通して試みていきます。

5

芸術の広がりを知る

映像演習Ⅱ アニメーション

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：布山タルト、伊藤有壺、山村浩二、岡本美津子、牧奈歩美

開講時期・時間：後期 水曜日 5時限

アニメーションは、ダイナミックにその形を変えながら様々な領域へと浸透する大きな可能性を持った表現です。

この授業ではその可能性と多様性、それを基礎づける思考や技術、社会とのつながりなどについて、異なる専門性を持つ教員陣がオムニバス形式で紹介します。

授業では、歴史や地域を横断して多数のアニメーション作品を紹介するとともに、一部、ワークショップ形式の演習なども交えながら、アニメーション表現を俯瞰的に理解していきます。この授業を入り口として、みなさん自身の制作や研究にアニメーションを積極的に取り入れ、その実践を深めていってほしいと願っています。

6

芸術の広がりを知る

応用音楽学入門Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：畑瞬一郎

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 3時限

音楽、言語、知性、教育、発達、生命といったキーワードを中心にしながら音楽の可能性について考察します。人間固有のものと考えられる複数の能力を人の知性として捉え、なかでも音楽と言語の類似点・相違点にフォーカスすることから始めます。履修者の興味と関心を重視して課題を選択し、受動的な知識吸収型ではなくオープンクエスチョンを是とした討論型授業を目指しており、履修者の積極的な発言を期待しています。

7

芸術の広がりを知る

音楽文化史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：舘亜里沙

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 4時限

私たちの親しむ音楽文化の中では、様々な「音楽」の定義が存在しています。

本授業では、その多種多様な音楽の価値観が生まれた歴史を、とりわけ西洋音楽とそれを取り巻く社会に焦点をあて、概観します。過去の音楽を知ること、改めて現代の音楽文化を考察するというのが本授業の到達点です。

前期は、主に講義形式で授業を実施、中世から近代までの西洋音楽史を概説します。

後期は、主に演習形式で授業を実施、音楽環境創造科の学生が携わることの多い20世紀以降の音楽を採り上げます。

8

芸術の広がりを知る

音響学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：渡邊祐子

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 2時限

“音”とは、私たちの生活環境に存在し、私たちの生活を“豊か”にも“不快”にもする重要な環境パラメータです。

前期の音響学Ⅰでは、音を扱う学問（音響学）の歴史と変遷を概説したあと、音の物理的特性として音の発生、音波の伝搬などが地球の物理法則に基づいていることを解説します。一方で、ヒトは聴覚（耳）を通して音を知覚します。その機能（生理）や感覚的性質（心理）についても解説します。

後期の音響学Ⅱでは、音響学に含まれる様々な分野や技術、例えばデジタルオーディオ、音声、3D音響、サウンドマップなどの解説や最新のトピック紹介を通して、音に関する知識を深めることを試みます。

9

芸術の広がりを知る

音声学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：三枝英人

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 1時限

歌ったり、ことばをしゃべったり、楽器を演奏したり、そして芸術を創造するのはヒトのみが行う行動です。

音声学というと硬いイメージですが、この授業では、音楽という特異な行動を行うヒト自身の成り立ち、それをさらに生命の成り立ちから、例えば音楽を行う身体姿勢がなぜ歌声や器楽演奏に大事なのか、呼吸とは何か、ピッチの調節や発音はいかに行われるべきかななどを考えていきます。ですので、(芸術として、もしくは創造的な) 音(と) 声(について) 学び、考える講座ということになります。朝いちばんの授業なので、パンをかじりながら気軽に、頭を柔軟にして受講してください。

10

芸術の広がりを知る

クリエイティブ・アーカイヴ演習
アーティストのためのアーカイヴ

未来創造継承センター開設科目

授業を行う先生：平論一郎、田口智子、仲辻真帆、浅井ふたば、大田原章雄、熊澤弘、
尾高暁子 ほか

開講時期・時間：通年 火曜日 6 時限

「アーティストのためのアーカイヴ」をテーマに、美術・音楽・映像・身体表現・アートプロジェクトなど、多様な活動のアーカイヴをどのように構築し、新たな表現へと活用していくかを学ぶ年間 15 回のオンライン講義と演習です。

前期は「東京藝大のアーカイヴ」をテーマに、いま自分たちが居る場所の歴史と流れを学ぶことで、自身の創作や研究の背景を構築していきます。

後期は、現代のアーティストやアートセンターが、実際どのように表現のアーカイヴを管理し、創作や研究へと活用しているかを学んでいきます。

11

芸術の広がりを知る

芸術史

音楽学部開設科目

授業を行う先生：木方幹人

開講時期・時間：前期 月曜日 5 時限

「藝術」(＝アート)の生成の歴史を「近代」のひとつの柱として位置づけ、それが自律性を獲得し、いかにその言葉として使われ続けてきたかを具体的に講ずる授業です(例えば「藝術大学」の名が困難なく流通するその理由を示すこととなる)。

そこでの「近代」とは今もその渦中にあるという広義の意味であり、科学的世界観および産業革命の勃興とともに「人間の思想」として欠くべからざる枠組みとして発展し続けている姿を、美術、音楽のみならずひろく漫画・アニメにいたるまで「各芸術史」としてわかりやすく説明します。

同時に一般にあまり知られていない「エステティック(美的直感的)」の次元、すなわち美学の理解と藝術という理念を説明していきながら、「アート(藝術)とは何か」という問いに自分なりの解釈を持てるための基礎知識を講じます。

12

芸術の広がりを知る

芸術と情報

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：桐山孝司

開講時期・時間：後期 水曜日 5 時限

芸術と情報の関わりについて考察し、現代の創作活動を行っていく上で必要な情報についての理解を深めます。また、現代社会を見えない層で動かしている情報技術のしくみにも注目します。

講義の中では、観ておくべき古典的な映像作品に触れる機会も設けます。

一部の回では大学院映像研究科ゲームコースとの連携により、スクウェア・エニックスのクリエイターによる講義をアーカイブ映像で行います。

13

芸術の広がりを知る

現代芸術概説

音楽学部開設科目

授業を行う先生：菅原伸也

開講時期・時間：後期 木曜日 5 時限

現代美術とは何でしょうか？

近代の美術が、絵画とは何か、芸術とは何かを、探究する求心的な自己言及へと向かい最終的には限界にぶつかってしまったのに対し、その後を引き継ぐ現代美術はむしろ、美術という領域から外へ、周りで起こっているさまざまな社会問題へと向かっていきました。

現代美術がいつ始まったのかを決めるのはなかなか難しい問題で諸説が存在していますが、この授業では、現代美術の先駆的な存在としてマルセル・デュシャン（そう、「便器」の作品の人です）を最初に取り上げ、フェミニズム・アートを含む戦後アメリカ美術を見た上で、観客や参加者といった人々を作品に巻き込んでいくリレーショナル・アートやソーシャリー・エンゲージド・アートに至る 100 年間の現代美術の歴史を扱います。

そして、そうした歴史や理論を踏まえた上で、現在さまざまな場所で制作・展示されている現代美術の作品をある程度理解できるようになることを目指します。

14

芸術の広がりを知る

現代美術キュレーション概論

キュレーション教育研究センター開設科目

授業を行う先生：今村有策、李美那、熊澤弘、服部浩之、熊倉純子、荒木夏実、

平論一郎、相馬千秋、毛利嘉孝、難波祐子 ほか

開講時期・時間：集中講義

現代美術を取り巻くキュレーションは、近年の美術表現の領域横断化や、時代の変化に伴う美術館や展覧会のあり方の変遷によって、大きくその姿を変えています。

本授業では、キュレーションの現在を中心に、過去と未来にも眼を向け、その多様なあり方と可能性を紹介し、これからのキュレーションについて思考・実践していくための手がかりとします。

毎回、さまざまな専門分野から講師を招き、オムニバス形式の授業でキュレーションを多角的な視点から読み解き、これからのキュレーションのあり方についてディスカッションしていきます。

15

芸術の広がりを知る

創造と継承とアーカイヴ

美術学部開設科目

領域横断的思考実践 — Cross-disciplinary Platform

授業を行う先生：李美那、平論一郎

開講時期・時間：通年 木曜日 ※不規則日開講 18:00 ~ 19:30

年間 15 回、ZOOM によるオンライン授業です。学部・院、専攻を問わず、誰でも受講できます。日英の同時通訳が入るので、日本語が第一言語でない方もぜひ参加してください。

前期は「東京藝術大学の再発見」をテーマに、美術学校や音楽学校から現在へと続く建物、教育、人物などを掘り下げていきます。

後期は「作品と死」をテーマに、生物、身体、ファッション、行為、慰霊など、多分野のアーティストや研究者を招いて、話題提供していきます。

授業では、講師の李と平がゲストの話を読み解きながら、受講生からのコメントを取り入れて積極的にディスカッションの場を作りますので、アートが生まれる社会の幅広い知を、自ら読み解く力を鍛えることを目指し、待ちではなく攻めの姿勢で臨んでください！

16

芸術の広がりを知る

バレエ史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：川島京子

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限

バレエはイタリアで生まれ、フランスで育ち、ロシアで花開いたといわれます。さらに20世紀になると、このロシア・バレエがロシア革命によって全世界へと伝播してゆきます。

授業では、こうしたバレエ史の通史を押さえつつ、それぞれの時代の作品の特徴について学びます。バレエ芸術の基礎から文化的・政治的コンテキスト、ほかの芸術ジャンルとのつながりなど、広い視野からのアプローチの中でたくさんの発見をしていただき、みなさん自身の表現につなげていってほしいと思っています。

前期の「バレエ史Ⅰ」では、舞踊の起源から19世紀のロシアのクラシック・バレエまで、後期の「バレエ史Ⅱ」では、20世紀のバレエ・リュスから現代までのバレエを学びます。

17

芸術の広がりを知る

美学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：吉田寛

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 5時限

美学は、感覚や感性について考える学問です。

英語ではエステティックスといいます。この語は、感覚や感じることを指すギリシャ語のアイステーシスに由来します。感性と美と芸術が、美学の三つの主要な関心領域です。美学はよく芸術学や芸術理論と混同されますが、芸術は美学の対象の一部にすぎません。

芸術の制作や鑑賞はもちろんのこと、日常生活のあらゆる場面で、われわれは五感を通して世界を感知しています。思考や感情はすべて感覚や感性と結びついています。身体や感覚は、われわれに属するものというより、われわれと世界の境界です。その境界の在り方や働きについて考えるのが美学なのです。

この授業では、芸術だけでなく様々な身近な事象を扱いながら、感性について考えます。

18

芸術の広がりを知る

ポップ論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：桜井圭介

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 5時限

ほんの100年ちょっと前に始まったユース・カルチャー、それ以前には社会を回している「大人」が独占していた文化（主流の／規範的な／メジャーな）に対して起こった、コドモのコドモによるコドモのためのカルチャーについて見ていきます。

ここでいう「コドモ」とは、「（例えばアメリカ合衆国における）非白人」「女性」「同性愛者」など、様々な意味における「マイノリティ」のことでもあるでしょう。

具体的な足掛かりとして、アメリカン・ポップ・ミュージック史、日本社会の転換期＝1980年前後のポップ・カルチャー全般を概観していきます。どちらも、遠い過去の話に思えるかもしれませんが、僕たちの現在のポップ・カルチャーの起点であり参照点だと思うのです。

19

芸術の広がりを知る

メディア特論：アート＋

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：牛島大悟、松浦知也

開講時期・時間：通年 水曜日 6時限

芸術情報センター（AMC）では、その時代の第一線で活躍しているゲストの方々を招いた講演および授業を行ってきました。

この授業では、様々な分野のトップ研究者・表現者を迎えて、ゲスト講師の講演およびトーク形式の講義を行います。授業は前・後期を通じて隔週で行い、オンラインにて受講できます。

創作活動において、様々な専門領域の研究や最先端の発想を知することは非常に重要です。自分の専門領域だけでなく、その専門性を軸に多分野についても幅広い見識を持つことで、より強い表現力を身につけることができます。また、毎回の授業に参加して多種多様な側面から考えることで、この授業がきっかけとなり新しい表現や発想につながることを期待しています。

20

次の時代の知識を得る

芸術情報リテラシー概論

芸術情報センター開設科目

著作権、知的財産権、メタバース、NFT アート

授業を行う先生：我妻潤子

開講時期・時間：後期 水曜日 4 時限

芸術の世界もデジタル化が進み、NFT・メタバースといった単語が普通に聞こえてくるようになってきました。一方で自身の作品の権利を他人に侵害されたり、自身が侵害しないようにするためには、知的財産権の知識を持つだけでは足りず、知的財産権の知識を利用することが求められます。

この授業では、知的財産権の知識を「情報」ととらえ、芸術に関する「情報」を、自身で精査し、考えるということを目的としています。

今後ますます、芸術作品の在り様が多様化され、またそれを伝播する方法も多様化していきます。「知らなかった」では済まされない時代だからこそ、積極的に参加し、情報収集力、情報精査力を身につけてもらいたいと思っています。

21

次の時代の知識を得る

情報メディア学

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：嘉村哲郎

開講時期・時間：前期 月曜日 4 時限

私たちの身の回りにある様々な情報ツールの利用方法について学びます。メールやクラウドの利用など、基礎的な内容から専門的な内容まで幅広く解説します。

現代社会において誰もが知っておくべき情報リテラシーとして、Microsoft Office の利用方法については基礎から応用まで、実際に機器を操作しながら身につけていきます。また、インターネットを利用する上で必須の知識となっている、情報セキュリティや著作権についても学びます。

各回において、実習形式、講義形式を取ります。課題が出される場合もあります。高度化された現代の情報社会において情報機器を扱う上での、基本リテラシーとセキュリティ意識を身につけることを目指します。

22

次の時代の知識を得る

創作のための認知科学

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：大谷智子、磯谷悠子

開講時期・時間：後期 木曜日 3時限

この授業では、人間にとっての意識・感情・行動の関係を理解し、認知科学に関する理解を深めることを目的としています。

人間は、知覚・注意・学習・記憶・推理など多くの認知機能を統合的に働かせながら、環境に適応し、環境を改善するという、知的活動を行っています。外界からの刺激を受け、何らかの反応をするまでのメカニズムを、情報処理という観点から理解しようとする学問が認知科学です。この人間の認知プロセスを正しく理解した上で制作した作品は、多くの鑑賞者の感動や共感を生み出します。

本授業では、作品や事例などを紹介しながら、人間の認知プロセスの特徴を解説します。特に、精神障害と認知の関連については、実務者による事例を踏まえた解説をします。

23

次の時代の知識を得る

著作権概論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：桑野雄一郎

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 2時限

音楽と関わっていく上で著作権法は避けて通れません。音楽作品を創作する人、音楽作品を演奏・歌唱する人、演奏・歌唱された音楽作品を視聴し、それを利用する人、それぞれについて著作権法の定めている様々な権利が密接に関係します。

前期のⅠでは、みなさんにとって身近で、またとても重要な著作権法の概要について解説をします。法律の中でもなかなか複雑でわかりにくく、またファジーな要素が多いのですが、弁護士としての実務経験も踏まえて、事例なども紹介しながら進めていきます。

後期のⅡでは、Ⅰで学んだ著作権法の概要を踏まえて（ただし、Ⅰを履修していることは履修の要件ではありません）、具体的な事案を紹介しながら理解を深めます。実際に紛争になった事例や、炎上騒動になった事例、特に問題にはならなかったが著作権について考えるのによい事例などについて、具体的な題材を提供しながら、解説をしたり、みなさんと一緒に考えたりしながら進めていきます。最新のトピックスでいいものがあれば、それを取り上げることもあります。

適宜、動画や音源などの資料を視聴してもらったり、短い文章を読んでもらったりする予定です。

24

次の時代の知識を得る

メディア・リテラシー

音楽学部開設科目

授業を行う先生：白盛琇（ペクソンス）

開講時期・時間：前期 木曜日 2 時限

わたしたちがコミュニケーションを行なう際に基本になるのは言語です。

わたしたちは言葉を話すことで人々と疎通し、文字で書き残すことによってより広く伝え、長く残すことができます。しかしながら、現代において言語だけではなく、ビジュアルなものがコミュニケーションの役割を担うことが益々多くなってきています。新しいメディアの普及とそれによる私たちのメディア使用と感覚の変化もその理由になるでしょう。

この授業では絵画、映像、写真のシンボル・記号・アイコンなどのビジュアル情報を読み解きます。歴史的な起源、異文化的な相違、現代のマスメディアの観点から読んでいきます。

25

教養を磨く

イタリア文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：畑瞬一郎

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3 時限

今年度は、イタリア詩を歴史的に概観します。

聖フランチェスコからダンテ、ペトラルカなどを経て、19 世紀の詩人、レオパルディ、パスコリの代表的な詩を題材にしながら、イタリアの詩について学んでいきます。同時に韻律学の基礎的な知識を解説し、イタリアの定型詩がどのような発展をしてきたのかを考察します。

なお履修にあたってはイタリア語の文法知識および基本的な読解能力を必要としていますので留意ください

26

教養を磨く

英米文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：侘美真理

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 3時限

「英米文学」の授業には目的が2つあります。18世紀～20世紀のイギリス文学に触れ、それぞれの時代の作家が人生や社会をどのように描き、またその世界を「言語テキスト」という形でどのように構築したかを知ることです。もう1つの目的は英語の原文・原作に触れてもらうことです。

原文ならではの面白さと、小説としての複雑さを体験してもらいたいと思います。語学の勉強にもなりますが、単語や表現のニュアンスなどテキストを深く読み込むので、文学の読み方の基礎を学ぶことになります。

2023年度の前期は、英国の世紀末文学や文化を概観します。後期は同時代の作品からじっくり読める短篇を2、3篇選び、テキスト全体を原文で読んでいきます。

27

教養を磨く

憲法 ※（前期）（後期）いずれかで履修ができます

美術学部開設科目

授業を行う先生：岡田順太

開講時期・時間：前期・後期ともに 月曜日 2時限

この授業は、日本国憲法の基本原理や内容を概観し、国家の統治組織とその働きについての理解を深めることを目指します。

テキストをもとにした講義が中心ですが、授業内容の確認と理解の定着を目的として小テストを実施したり、予習用の動画を提供したりして、履修者のニーズに応じた学習ができるように配慮しています。

なお、憲法は公務員試験や教員免許取得の必須科目です。授業においては、そうした試験などにおいて要求される水準を確保するために必要な最低限度の知識の伝授ができるようにも心掛けています。

【授業内容参考 URL】<https://sites.google.com/view/geidai-kenpou/>

28

教養を磨く

社会学

美術学部開設科目

授業を行う先生：土橋臣吾

開講時期・時間：集中講義

社会学はたいへん幅の広い学問ですが、この授業では、ポピュラー音楽を素材としながらメディアの社会学の基礎を学んでいきます。

「音楽をめぐるメディアの変遷」が直接の議論の対象となりますが、それを通じて、メディアというものが文化や社会のかたちになんて作用するのかを理解することが、この授業の主眼となります。そのために、「マスメディアと音楽」「デジタルメディアと音楽」「ソーシャルメディアと音楽」の3セクションに分け、それぞれのセクションの初回で重要な理論や概念について学び、その上で事例の分析を行います。

授業の形式としては、座学が6割、ワークショップ形式が4割というかたちで、動きのある授業を展開するように心掛けています。

29

教養を磨く

宗教学

音楽学部開設科目

宗教のセカイ／セカイの宗教

授業を行う先生：西村明

開講時期・時間：集中講義

「宗教」というと身構えたり、堅苦しく考えたりするかもしれません。しかし、宗教学で扱う対象は、キリスト教や仏教などのように「〇〇教」と呼ばれる輪郭のはっきりした教団や教義にとどまりません。むしろ宗教的ではないような「世俗」の生き方や価値観にも及びます。一見、無関係な「宗教」と「世俗」の関係が、近年ますます注目されるようになっています。

この授業では、そうした「宗教」、「宗教的なもの」と「世俗」をめぐる歴史や現状について、「セカイ」をひとつのキーワードとして迫ってみたいと思います。これらを的確に理解することで、みなさんの表現や思考の営みも、より深く、より鋭くなるはずです。

30

教養を磨く

心理学概説Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：中山遼平

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 5時限

リンゴは赤く見えます。これは、物理学的にリンゴの表面が特定の波長の光を反射し、また生物学的に私たちの目が光の波長に感度を持つためです。しかし、そもそも私たちが感じている「赤」とは何かという疑問が残ります。

あなた自身が感じている「赤」は、他者が感じている「赤」とは違うかもしれません。この疑問は未解明ですが、私たちの脳あるいは心の働きにより生じる内面的なふるまいとその法則を知ることは、好奇心を満たしてくれます。こと心に関しては、将来の予測にも役立つはずです。

この授業では、感覚・知覚・記憶・学習・認識・感情・集団心理など、心理学の主要なトピックに関する知見を歴史的経緯や方法論と結びつけながら体系的に紹介していきます。

31

教養を磨く

生物学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

美術学部開設科目

授業を行う先生：伊藤正則

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 月曜日 5時限

生物の形態・生理を理解し、これらの知識を芸術作品の制作に役立てることが目的です。

具体的には、様々な生命現象のうち、身近で興味深いと思われるものを対象にして、その発現メカニズムを基礎的なところから説明します。また、生命現象から疑問点を抽出し、疑問点を論理的に正しい方法で解決することを試みた研究を紹介します。

これらの目的を達成するための方法として、写真や図を用いた授業を行います。

生命現象を解析する上での考え方と得られた知識を自身の専門に活かすことを希望します。

32

教養を磨く

哲学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

美術学部開設科目

授業を行う先生：鈴木泉

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 2時限

多くの学生の皆さんは、まだ哲学に触れたことがないと思います。

他の学問の場合、社会学や物理学のように「学」の部分を取ってしまうと何を対象とする学問かわかりますが、哲学の場合にはそれすらわかりません。哲学はその対象によって内容が決まるのではなく、独特に考える考え方のことだからです。と言われてもまだわかりませんね。

そこでこの授業では、まだ音楽を聴いたことも絵画を見たこともない人が、音楽や絵画に初めて触れるように、哲学の活動に触れてもらうことを目的とし、芸術にも造詣の深かった20世紀後半のフランスの哲学者ジル・ドゥルーズと共に実際に思考することを通して、哲学の世界へ誘うことを試みます。

33

教養を磨く

ドイツ文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：白鳥まや

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限

本授業ではドイツ語圏の作家やドイツ語で書かれた作品の中で重要と思われるものをピックアップし、講義形式で紹介しつつ、中世から現代までのドイツ語圏の文学の歴史やその文化的背景を学びます。

詩や短い作品であれば事前に参加者に読んできてもらい、授業内で感想や解釈について話し合う時間を設けたいと考えています。ドイツ語の知識は必ずしも求めませんので、ドイツ語履修者のみならず、これから学びたい人も歓迎です。文学に興味がある人やドイツ語圏への留学を考えている人に、「ドイツ文学にはこういう作品があるんだ」、「この作品が生まれた背景にはこんな歴史や文化があったんだな」と知ってもらえるような内容にしたいと考えています。

34

教養を磨く

フランス文学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：大森晋輔

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 3時限

皆さんはボードレール、ヴェルレーヌ、ランボーといったフランスの詩人の名前を聞いたことがありますか。

「聞いたことはあるけど、詩は読んだことがない」という人はぜひ参加してみてください。この授業ではフランス語で書かれた詩を、それが成立した時代の中に位置づけながら多角的に味わいます。

まずは、定型詩を構成している決まりについて解説し、詩の構造を正確につかめるようにします（フランス語は初級程度の知識でも大丈夫です）。最終的には、詩（ことば）を通して詩人たちが世界をどうとらえてきたのか、詩を書く／読むとは何か、ということについても考えます。

詩の朗読や歌曲もあわせて聞きながら、目からも耳からもフランス詩の世界に親しんでいきましょう。それまでとは世界が変わって見えてくるはずです。

35

教養を磨く

文化社会学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：若林幹夫

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 2時限

「文化」という言葉は、表現活動から生活や行為や思考の様式まで、人間社会のさまざまな領域や活動を指し示す言葉です。この授業では「文化」概念のそうした広がり留意し、表現活動と経済活動や社会生活やテクノロジーが交差する領域である建築と都市をとりあげ、現代の文化と社会について考えます。

ロバート・ヴェンチャーリ他『ラスベガス』をテキストに、消費文化と建築、建築と都市の歴史、モダンとポストモダン、機能と記号と象徴などの主題を考察、検討します。

テキストを共同で読み解き、議論して理解を深める方法を修得し、身近な環境や風景を文化や社会の表出として読みとり、分析する視点と方法を身につけることを目指します。

36

教養を磨く

文化人類学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：加原奈穂子

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 2時限

文化人類学の視点や基本概念、研究方法などを紹介するとともに、前期はことば、認識・分類、文字、コミュニケーション、後期はジェンダー、観光と伝統の創造、多文化社会といった話題を取りあげています。

文化人類学の特徴として、フィールドワークにもとづいて、文化の多様性と普遍性を探究していくことが挙げられます。文化人類学の概論的な紹介にとどまらず、できるだけ事例にも触れていただけるように、映像や音声資料なども活用しながら進めていきます。

文化の多様性に触れることを通して、皆さんがご自身の世界を広げていく手がかりを見つけていただければと願っています。

37

教養を磨く

法学（含日本国憲法）

音楽学部開設科目

※（前期）（後期）いずれかで履修ができます

授業を行う先生：横大道聡

開講時期・時間：前期・後期ともに 金曜日 5時限

芸術家に法律は関係ない？ 確かに一面ではそのとおりかもしれませんが。

専門的に法を学ぶよりは芸術の道に邁進することがみなさんの使命でしょう。しかし、他面では、みなさんも社会を構成する一市民です。また、社会または政治生活の正・不正の問題は、芸術と密接に関係しており、それを知らずに作られる芸術は「薄っぺらい」ものになってしまうかねません。

この授業では、現在の日本社会あるいは政治共同体の在り方を、主に日本国憲法とその運用を中心に、講義を通して概観します。皆さんに市民として必要な教養を身につけてください。

38

教養を磨く

歴史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：草野佳矢子

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 金曜日 3時限

この授業では、19世紀末から20世紀末までのいわゆる「西洋史」を講義します。

西洋史の知識は、現代のヨーロッパやアメリカ、また過去にその支配下にあった地域で起こっていることやその背景を理解するために必要であり、また芸術作品の鑑賞やみなさんの創作活動にも有用なものであると思います。

授業では、講義内容の理解を深めていただくため、関連する映像やドキュメンタリー番組も視聴します。その際、番組内の説明が講義での説明と多少異なることがあります。講義での説明は、おおむね定説に沿ったものになりますが、歴史像は語り手の立場や史料の解釈などによって異なりうるからです。

講義を聞き、映像を視聴して、疑問を持った事柄について自身で調べてみてください。そのことにより、高校までの暗記中心ではない、歴史を学ぶことの面白さを感じることができるでしょう。

39

教養を磨く

倫理学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

美術学部開設科目

授業を行う先生：櫻井一成

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 火曜日 2時限

大学の教養科目の「倫理学」の場合、メタ倫理学や規範倫理学の諸問題と諸学説を紹介したり、現代社会が直面している倫理的問題を紹介したりするような授業内容（応用倫理学）が一般的ですが、本授業は「藝大」で行われる倫理学の授業であることを強く意識した内容構成となっています。

倫理を他者との共生やよく生きること（幸福）に関わることがらと理解した上で、我々の美的判断や芸術の諸実践（制作、解釈）が倫理的問題を孕んでいることを指摘し、これを契機として倫理的な思索を深めていきたいと思います。また同時に、生きることの創造性格についても考えてみるつもりです。

倫理学と美学の交差というのが本授業のキーワードになるでしょう。

40

社会と共創する

音楽アウトリーチⅠ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：佐野靖

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 水曜日 3時限

この授業は、講義とアウトリーチの企画・実践から構成されます。

アウトリーチを実践するための基礎的な知識や基本的な考え方を身につけ、コンサートやワークショップ、レクチャーや歌唱・器楽指導などの活動プログラムを構想、展開します。アウトリーチでは、受け入れの諸機関と事前に打ち合わせをし、目的や課題を共有しながら内容を工夫し、さらに事後の反省を次の機会につなげていくというプロセスが重要となります。

キャリア教育の一環にも位置づけられるこの授業では、社会で活躍するゲスト講師から様々な話題や情報を提供していただきます。

41

社会と共創する

音楽教育入門

音楽学部開設科目

授業を行う先生：佐野靖、山下薫子、市川恵

開講時期・時間：前期 金曜日 3時限

音楽教育は、学校音楽教育や高度な技能習得をめざす専門音楽教育に限るものではありません。

幼児教育や障害児教育、あるいは成人を対象とした社会教育や生涯学習等においても音楽活動とその学習は重要な役割を果たしています。そうした広い意味での音楽教育について学び、音楽と人間の多様なかかわりを教育的な視点から考えていく授業です。

具体的には、「音楽教育の思想と歴史」、「音楽と発達」、「音楽・言葉・身体」、「音楽の教授・学習過程の実際」、「授業・レッスン研究」などをテーマとして、教員の講義、学生による発表、指導実践を組み合わせながら、音楽教育の意義や基礎的な内容について深めていきます。

42

社会と共創する

音楽療法Ⅰ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：今野貴子

開講時期・時間：前期 木曜日 4 時限

みなさんは一人の人と対面した時に、自分の音楽を活かして関わることができるでしょうか？

音楽療法の理論と技術には、乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対して、さまざまな病気や障害、環境や文化を持つ対象者に寄り添いながら、医療福祉施設、学校、コンサートホールなど多様な現場で音楽を提供するためのヒントが詰まっています。

授業では、音楽療法の基礎的な理論や実践例について映像を交えて紹介するほか、自分の専門性を生かしながら様々な対象者と関わる技術や、多様な音楽活動を企画するコツについて実践的に学ぶ予定です。

ぜひ、音楽療法の視点から、自分の感性と音楽技術を人のために活かす方法を見つけてください。

43

社会と共創する

音楽療法Ⅱ

音楽学部開設科目

授業を行う先生：重田絵美

開講時期・時間：後期 木曜日 4 時限

現在の日本の音楽療法は、乳幼児から高齢者まで幅広く対象とし、発達支援やリハビリテーション、社会参加、看取り等、さまざまな臨床的目標のもとに行われています。

授業では、様々な領域における音楽療法の事例を、映像やロールプレイング等を交えて紹介し、音楽による関わり、臨床的な目標に向けたアプローチ等について学びます。授業を通して、様々な人との関わりや音楽活動において幅を広げる機会になることを期待しています。

音楽療法の実践例から、一人一人の成長発達を支え、個々の生き方に寄り添う音楽の意味や可能性について学ぶことができます。みなさんが、音楽の届け方、社会における音楽の可能性等について考えることにも、つながっていくことでしょう。

44

社会と共創する

芸術と社会

音楽学部開設科目

21 世紀の社会が求める創造性とは（企業編）

授業を行う先生：熊倉純子

開講時期・時間：集中講義

昨今、世界的に企業の芸術に対する注目度が著しく上がっています。

しかし、企業が求める「創造性」とは、どのようなものなのでしょうか。はたして、今日の藝大生の創造性は日本企業の求めるものにマッチするのでしょうか。

本授業は、複数の日本企業の様々な部署で働く第一線の人々を講師に迎え、藝大の様々な学科・専攻から集まった学生とワークショップ形式で対話を試みるものです。学生は、参加企業から出される課題を選び、グループワークを通じて解答となる具体的プランを考え、提案を行います。

授業を通じて、まずは「社会に媚びずに発想する」力を養い、それを「伝える」方策を模索する経験値を培うことを目指します。

45

社会と共創する

芸術文化環境論Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

音楽学部開設科目

授業を行う先生：伊志嶺絵里子

開講時期・時間：前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ） 木曜日 3時限

「芸術文化は不要不急なものでしょうか？」。

大学で技術的スキルを身につけているアーティストやアート・マネージャーたちが、この問いに自信を持って答えられるためには、芸術文化が置かれている環境について深く考察しなければなりません。

国や地方自治体、企業、アート NPO などは芸術団体に対して、何を目的にどのような支援をしているのでしょうか？

そして、芸術あるいはアーティスト自身は人や地域社会に対して何をもたらしているのでしょうか？

本授業では、国内外の芸術政策（国・地方自治体）や、様々なセクターによる芸術支援の状況および、地域社会に寄り添いながら展開している芸術活動の事例を紹介することで、芸術活動の意義や価値について多角的に考えていきます。

46

社会と共創する

芸術情報概論 A（前期）・B（後期）

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：中尾根美沙子、井上愉可里、望月玲奈

開講時期・時間：前期（A）・後期（B） 金曜日 5 時限

教育現場はもちろん、社会でアートを活用したワークショップが求められています。そのワークショップの理論と実践が学べる授業です。

ワークショップの作り手として意味と仕組みを説明できることや、ワークショップを実際に作る際の基本的な手順などを提供します。

ワークショップを実際に企画・運営することを想定している人や、学校の授業でワークショップ型の授業を多く取り入れたいと思っている教職志望の人にも役に立つ授業なので、自分でやることを想定しながら受講すると大きな成果が上がります。

47

社会と共創する

「障がいとアーツ」研究

演奏芸術センター開設科目

授業を行う先生：高橋幸代、楠田健太、松岡あさひ

開講時期・時間：通年 水曜日 4 時限

多様性が重視される現代において、芸術の果たすべき役割とは何でしょうか。

障がいのある人と芸術とのかかわり、彼らの表現から学ぶことを通して、創造的な視点で芸術の新たな価値を創出し、すべての人が「共に生きる」社会の実現を目指します。

特別支援学校や福祉施設でのワークショップ、障がいのあるアーティストとのコラボレーションなど、様々な出会いの中で、受講生自らが主体的に考えて企画し、分野を超えて協力し実現していく授業です。

また、視覚障がい者のアテンドや手話通訳の講習や実践、ゲスト講師を招いた特別支援学校における芸術教育や国内外のインクルーシブアーツなどについての講義など、誰もが等しく芸術を享受し表現できる環境づくりについて考えます。

DOOR「アート×福祉」をテーマに社会人と一緒に学ぶプログラム

「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR)は、「アート×福祉」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト型の授業です。

講師として現代の社会に生きづらさを感じている当事者、社会との関わりを持ち、表現を行なうアーティスト、現代の福祉をより広い視野で捉え直す多様な分野の専門家を迎え、開講します。

※本授業は、美術学部の学生が対象となります。

48-1

ARTs × SDGs プラクティス

開講時期・時間：通年 開講日時はシラバスを参照してください

芸術・表現・ケアをより広い視点で捉え直すための授業です。「芸術とSDGs」をテーマに据え、持続可能な社会を考える上での課題を見つけ出し、福祉とアートが重なる領域を創造的に構築していくことを目指します。

48-2

ダイバーシティ実践論 ※ケア原論と一緒に履修が必要

開講時期・時間：通年 月曜日 18:20～19:50 ほか

実際に生きづらさを抱えている当事者や、当事者と関わりながら活動を行なっている実践者・表現者との対話や、現代の福祉をより広い視点で捉え直す様々な領域の専門家を講師に迎えて、オムニバス形式の講義を行ないます。これからの社会で創造されるべき共生社会を考察し、実践につながる思考を編んでいくことを目指します。

48-3

ケア原論 ※ダイバーシティ実践論と一緒に履修が必要

開講時期・時間：通年 不定時

福祉の歴史やケアの基礎的な考えを知り、私たちを取り巻く環境が抱える問題について理解を深めます。また、福祉とアートの両領域における創造的な取り組みを参照することで、現代の福祉とアートの接点について考えます。アートを介し、福祉をより多角的な視点で捉えてゆくことを目的としています。

48-4

DOOR プログラム実践演習

開講時期・時間：通年 不定時

多様な人々がともに過ごす場を作るワークショップなどを考案し、実践します。また、社会の中で見過ごされがちな事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深めます。

48-5

ケア実践場面分析演習

開講時期・時間：通年 不定時

実際の福祉の現場へ足を運びグループワークなどで共働しながら、ケアの現場をより社会に開かれた場とする方法を考察します。福祉の現場に、自らの活動を作り出すための実習です。

48-6

ドキュメンタリー映像演習

開講時期・時間：通年 不定時

映像制作・ドキュメンタリー技法を基礎から学ぶことで、映像制作に触れることが初めての学生でも、基本的な映像メディアを扱えることを目標とします。テーマに沿って、グループで映像制作をし、授業の最終には上映会を行ないます。

48-7

美術鑑賞実践演習

開講時期・時間：通年 不定時

複数の人との対話を通じて作品を味わい、作品やモノを介して人がつながる場をデザインするプロセスを学びます。対話を生み、自由な発想で、主体的に見る鑑賞の場づくりについて、講義と実践を通じて考えます。

48-8

アクセスデザイン基礎

開講時期・時間：通年 不定時

障害をもつ当事者や社会的弱者の支援に取り組む組織・専門家を招き、人々がアートを介して多様な価値にアクセスできる環境について学びます。

48-9

人間形成学総論

開講時期・時間：集中講義

人間の性質や能力を育て形成する「教育」について考えます。現代社会の教育と学びの問題から出発し、人間形成の基本原則について学び、一生涯を通じた学びの基礎的理解を身につけます。

48-10

アートプロジェクト実践論

開講時期・時間：集中講義

いま、全国各地で様々なアートプロジェクトが展開されていますが、今後のアートプロジェクトはどのような方向性を持って進んでいくべきかという問いについて、実践的立場から検証と考察を行ないます。

49

社会と共創する

日本の芸術・文化を英語で学ぶ

グローバルサポートセンター開設科目

Introduction to Japanese Arts and Culture

※（前期）（後期）いずれかで履修ができます

授業を行う先生：井谷善恵、ミヒャエル・シュナイダー、イラン・グエン ほか

開講時期・時間：前期・後期ともに 水曜日 3時限

「日本の浮世絵について教えてくれない?」。もし、将来海外に行ったり、異なる文化の友人からこのように尋ねられたら、あなたはどうか答えますか?

浮世絵はそのまま「Ukiyo-e」ですが、その歴史、技法、特徴についてどのくらい英語で伝えることができるでしょうか?

この授業では、日本の美術、音楽、文化について、各分野の専門家から「英語」で学び、歴史的、文化的、社会的背景とともに理解を深めることを目指します。これまで、何となく知っているつもりだった日本の芸術・文化も、英語という言語やグローバルな視点から捉え直すことで、新たな気づきや発見があるはずです。

日本語のサポートもありますので、今後留学や海外での活動に関心がある方はぜひ挑戦してください。

2023年度の前期は日本のアニメーション、版画、工芸、邦楽について、後期は建築や映像文化、漫画等を取り上げる予定です。詳細についてはシラバスを参照してください。

50

デジタルの表現をみにつける

イメージ演習 A

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：牛島大悟、早川翔人

開講時期・時間：前期 水曜日 4時限

本学の取り組みである「東京藝術大学アート DX プロジェクト」に伴い、芸術情報センターに導入された最新機器について、演習形式で学んでいきます。

具体的には、VR ヘッドセット、3D スキャナ、3D カメラといった機材を、実習を通じて体験していきます。

また後半では、ゲームエンジンによるウェブアプリケーションの開発までを行います。学生のみなさんには、制作した作品を発表する機会も設けます。

授業は、芸術情報センター演習室にて対面で行われます。抽選申し込み方法は初回の授業にて行うので、希望者は必ず初回授業オリエンテーションを出席するようにしてください。

51

デジタルの表現をみにつける

イメージ演習 B

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：柳川智之

開講時期・時間：後期 火曜日 4・5時限

デジタル技術の台頭により、イメージを手に入れることはとても容易い時代になりました。同時に、イメージをアウトプットする方法は、物質ではなく、多くは「ディスプレイ」に取って代われようとしています。

この時代において、デジタルイメージを物質化することの意味を考え、その中で写真や絵画などのイメージを扱い作品を作ることの意義と、実践的な表現手法を模索することの実践を伴った演習を行います。

以前からあるアナログプロセスから始まり、デジタル技術を駆使したものなど、作品を制作しながら多彩な表現を模索していきます。

52

デジタルの表現をみにつける

インタラクティブ・ミュージック I

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：仲井朋子

開講時期・時間：前期 木曜日 4時限

デジタル・メディアを活用し、サウンドを作品の要素とする制作に取り組みます。

また、実際の作品制作・発表を通じて、メディアにおける「音」の役割について考えることができます。

授業では、DAW ソフトである Logic Pro などを使用します。

抽選申し込み方法については、初回授業にて行いますので、希望者は必ず出席するようにしてください。

53

デジタルの表現をみにつける

映像演習Ⅰ 映画

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：長瀧寛幸、加藤直輝

開講時期・時間：前期 火曜日 5時限

現在のあらゆる芸術表現において、映像は「芸術の記録装置」という存在を超えて、「芸術表現の一部」としても、あるいは「芸術表現そのもの」としての役割をも果たすようになりました。

この授業では「20世紀の映像表現」を牽引した「映画の制作手法」を学ぶことから、「21世紀の映像表現の可能性」を考えていきます。

授業内容は、

- ・ゲスト講師による「映画の制作手法」についての講義（監督、脚本、撮影照明、美術、編集、サウンドデザインについて）
- ・芸術情報センター所有のカメラ、編集ソフト（Adobe Premiere）を使った演習を二本柱とし、最終的に数分間の短編映画制作を行うことで、映像制作の実践的知識と技術の習得を目指します。

54

デジタルの表現をみにつける

芸術情報演習Ⅰ

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：松川祐子

開講時期・時間：前期 水曜日 3時限

Adobe InDesign を使った、紙メディア制作演習です。

この授業では、画像やフォントなどのデジタルデータや、印刷物などについての一連の知識と、InDesign の操作スキルを習得し、名刺や冊子などの紙メディアの制作ができるようになることを目指します。

前半で、基礎知識の講義とハンズオンを並行して行い、名刺などの小課題を通して制作の基礎を身につけてもらいます。後半で、その応用として、冊子制作を行います。その制作を通して、メディアのテーマ設定・コンテンツ制作・レイアウト・出力・製本まで一通り経験してもらいます。

この授業を通して、みなさんそれぞれの創作活動に必要なツール（名刺やDM、ポートフォリオなど）が、効果的に制作できるようになり、そのことで活動の幅が広がることを期待しています。

55

デジタルの表現をみにつける

芸術情報演習 II

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：加藤大直

開講時期・時間：前期 火曜日 3 時限

ビジュアル表現、アニメーション、プロダクト開発、建築に至るまで幅広く扱われている 3D 技術を習得します。

どの分野にも対応できるよう、前半部では 3D の基礎概念と技術を学び、後半では各分野に分けた技法の習得、制作を開始します。

主な使用ソフトは、CAD である Fusion360 と 総合 3D ソフトウェア Maya ですが、各受講生によってソフトウェアをプラスする場合もあり、昨今の様々な CAD、3D における技術ニーズに対応できる授業です。

基礎から始め、芸術情報センターの 3D プリンターやレーザーカッターを利用しながら、最終的に製品プロトタイプと 3D としてメディアに実装できるレベルまで習得します。

56

デジタルの表現をみにつける

ゲーム制作演習 1（前期）・2（後期）

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：薄羽涼彌

開講時期・時間：前期（1）・後期（2） 月曜日 5 時限

ゲームの制作を通して、芸術としてのゲーム、表現手法としての可能性について考察します。制作環境として Unity を用いますが、順を追って進めていくので予備知識がなくても履修可能です。

基礎の習得と、それぞれが自分のやりたいことへ向かっていくための応用力を養うことを目指します。

学生のみなさんには、前・後期ともに、制作したゲームを発表する機会も設けます。

前期授業「ゲーム制作演習 1」と後期授業「ゲーム制作演習 2」の内容は、ほぼ同様のため、後期から新しく履修することもできます。

57

デジタルの表現をみにつける

コードとデザイン

芸術情報センター開設科目

テクノロジー表現のはじめの一步

授業を行う先生：松浦知也

開講時期・時間：前期 金曜日 4 時限

この授業では、コンピューターを積極的に制作に取り入れるための様々な考え方について、実践を通じて学びます。

今日、映像をつくるにしても、音楽をつくるにしても、もはやコンピューターを使わずに制作を完結させることの方が大変です。

しかし、コンピューターの世界は本来マウスやキーボード、ディスプレイに閉じたものではありません。電子工作で光やモーター、スイッチなど様々な入出力を扱ったり、デジタルファブリケーション機器を用いてデータと物質を相互に変換できるようになれば、現実世界の様々な要素で遊べるようになります。

こうした実践を通じて表現の引き出しを増やしつつ、テクノロジーを主体的に使えるようになっていしましょう。

58

デジタルの表現をみにつける

デジタル・サウンド演習

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：仲井朋子

開講時期・時間：後期 木曜日 4 時限

本授業では、音楽シーンにコンピューターが導入されて以降の音楽表現と制作技術について理解を深め、音楽作品のみならず、サウンド・アート、オーディオ・ビジュアル作品、マルチメディア作品などに応用する音声信号処理プログラミングの基礎を学びます。

作品制作には、音楽／映像／マルチメディア用の統合開発環境である Max 8 などを使用します。

抽選申し込み方法については、初回授業にて行いますので、希望者は必ず出席するようにしてください。

59

デジタルの表現をみにつける

メディアアート・プログラミングⅠ

芸術情報センター開設科目

授業を行う先生：田所淳、森山朋絵

開講時期・時間：前期 金曜日 3・4時限

この授業では「クリエイティブ・コーディング」について学び、制作を行なっていきます。

クリエイティブ・コーディングとは、何かの機能を実現するのではなく、創造的に表現を行うことを目的としたコンピュータプログラミングです。生成的なデザイン、VR、AR、サウンドアート、プロジェクションマッピングなど、その応用分野は多岐にわたります。

授業内でプログラミングの方法や考え方について説明を行い、その内容をもとに制作を行っています。前期では p5.js というプログラミング環境を用います。

プログラミング経験のない方でも受講可能です。

60

デジタルの表現をみにつける

メディアアート・プログラミングⅡ

芸術情報センター開設科目

※メディアアート・プログラミングⅠを履修していなくても履修可能です

授業を行う先生：松浦知也

開講時期・時間：後期 金曜日 4時限

この授業では、様々なプログラミングを使う実践を通して芸術表現とテクノロジーの関わりを批評的に考える力を身につけます。たとえば、コンピューターに詩を書かせたり、Web 上をクロールさせたり、オリジナルのプログラミング言語を作ってみたりすることができます。受講にあたり、プログラミングの経験は問いません。

コンピューターは必ずしも便利な道具として活用するためだけのものではありません。あえて間違えた / 不条理な / 無駄な使い方をすることで、技術がどう社会の中で扱われているかを知るヒントになります。

授業で得た知識はすぐには役に立たないかもしれません。逆に特定のツールに依存しない、テクノロジーを用いる表現に取り組むための陳腐化しない考え方を身につけたい方の履修を期待します。

藝大リベラルアーツ（教養科目）ガイド 2023

GEIDAI LIBERAL ARTS GUIDE 2023

令和 5 年（2023 年）3 月 31 日

発行者：東京藝術大学教養教育センター

東京都台東区上野公園 12-8

クリエイティブディレクション・編集：岡田智博 東京藝術大学教養教育センター

デザイン：木下真彩

© 2023 Liberal Arts Center, Tokyo University of the Arts

本ガイドで掲載した各科目の履修内容の詳細については、大学 WEB サイト上にあるシラバスを参照してください。

